

■新春メッセージ

さらなる飛躍と新たな挑戦へー

芦屋大学ソーラーカープロジェクト代表 中川 邦夫



ドリームカップソーラーカーレース鈴鹿の総合優勝を喜ぶプロジェクトメンバー（鈴鹿サーキットで）

明けましておめでとうございます。皆さんは今年をどんな年にしたいとお考えですか。

私たち、芦屋大学ソーラーカープロジェクトは、参加した国内外の三つの大会に優勝し、国際自動車連盟(FIA)と日本自動車連盟(JAF)から表彰された、一昨年を最良の年と考えていました。ところが昨年は、国内の二大会とともに三連覇を果たし、さらに十月オーストラリアで行われた世界最大のソーラーカー競技会、World Solar Challengeで、参加チーム中最短時間でゴールに到達して、長年の夢であったクラス優勝を遂げることができました。その上、十一月にはレース活動や環境・エネルギー啓発活動を評価いただき、芦屋市民文化賞の栄誉も賜りました。一昨年を上回る素晴らしい一年になり、一層の飛躍を遂げることができたと考えています。

今年はどうでしょう？

もちろん、参加する大会では優勝を果たすべく、全力を注ぎます。しかし一九九二年のプロジェクト発足から十五年間継続してき

私たちが競っている相手、世界の有力チームは、数億円と思える開発、活動資金を投入して、車を開発し、競技会に参加しています。これまでわたしたちは、車両の性能、ドライバーの技量とチームワークなどによって、桁違いに少ない資金で世界と戦ってきました。しかし、新しい車の開発となると、そうはいきません。今年はこの大きな課題を解決する手段を見出し、さらなる飛躍を実現するための足掛かりを作る年にしなければならぬと考えています。

ところで、近年「サステイナブル・モビリティ(持続可能なモビリティ)」という言葉が自動車の研究、開発に係わる人達のキーワードの一つになっています。モビリティ(移動)は、人の根源的な欲求の一つと考えられ、人類の



虹とソーラーカー（オーストラリアの大地で）

豊かさや密接に係っている。そのモビリティの大きな手前の一つが自動車です。現在、地球温暖化やエネルギー問題を抱える自動車を「人類の持続可能な発展の中でどのように進化させるべきか」が研究されています。ソーラーカーはクリーンでしかも無尽蔵な太陽光エネルギーで動く車ですから、最も有力なサステイナブル・モビリティの手段と思われるが、しかし、街の中を走る、いわゆる実用ソーラーカーは、太陽光のエネルギー密度が低いという本質的な問題のために、非常に難しいと考えられてきました。

ですから、現在のソーラーカーは太陽光エネルギー活用のシンボリック意味合いが強く、多くの小学校では太陽光エネルギーを理解する授業の中でソーラーカー模型の製作が行われています。

私たちが次代を担う子どもたちに環境やエネルギーの大切さを知ってもらうため、実物のソーラーカーを使った小学校での訪問授業などを行っています。しかし、太陽光エネルギーのモビリティ手段への活用は、本

た芦屋大学のソーラーカー活動は、現在大きな転機を迎えています。というのは、競技会のルールが変更され、この一二年で新しい車を開発する必要に迫られているからです。ソーラーカーというと、テレビ番組「鉄腕ダッシュ」で見るダン吉号をイメージする人も多いと思いますが、競技用のソーラーカーはまったく違う次元のもので、最高速度百五十km/h以上で疾走するレーシングカーです。太陽光を電気に変える太陽電池は、ソーラーハウスの屋根にあるものと違い、人工衛星などで使用されている高価な高性能なものを採用しています。

た芦屋大学のソーラーカー活動は、現在大きな転機を迎えています。というのは、競技会のルールが変更され、この一二年で新しい車を開発する必要に迫られているからです。ソーラーカーというと、テレビ番組「鉄腕ダッシュ」で見るダン吉号をイメージする人も多いと思いますが、競技用のソーラーカーはまったく違う次元のもので、最高速度百五十km/h以上で疾走するレーシングカーです。太陽光を電気に変える太陽電池は、ソーラーハウスの屋根にあるものと違い、人工衛星などで使用されている高価な高性能なものを採用しています。

私たちが競っている相手、世界の有力チームは、数億円と思える開発、活動資金を投入して、車を開発し、競技会に参加しています。これまでわたしたちは、車両の性能、ドライバーの技量とチームワークなどによって、桁違いに少ない資金で世界と戦ってきました。しかし、新しい車の開発となると、そうはいきません。今年はこの大きな課題を解決する手段を見出し、さらなる飛躍を実現するための足掛かりを作る年にしなければならぬと考えています。

ところで、近年「サステイナブル・モビリティ(持続可能なモビリティ)」という言葉が自動車の研究、開発に係わる人達のキーワードの一つになっています。モビリティ(移動)は、人の根源的な欲求の一つと考えられ、人類の

●中川邦夫(なかがわ くに)氏

芦屋大学ソーラーカープロジェクト代表。芦屋大学経営教育学部長、教授(工学博士)。

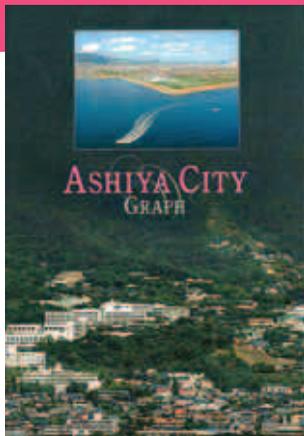


昭和23年、北海道札幌市生まれ。ほぼ24年間、大手自動車メーカーで乗用車の研究開発に従事。昭和55年「日本機械学会賞(論文賞)」受賞、平成19年「(社)自動車技術会創立60周年記念功労者」表彰。平成14年4月、芦屋大学に招請され、以後同学にて自動車工学を教授するとともにソーラーカープロジェクト代表として、同プロジェクトをまとめる。同プロジェクトは近年国内外のソーラーカー競技会で数々の優勝を遂げ、平成18年「FIA(国際自動車連盟Alternative Energies Cup)」、「JAF(日本自動車連盟)特別賞」受賞。平成19年「芦屋市民文化賞」受賞。



疾走する「芦屋Sky Ace TIGA」(全日本ソーラー&FCカーチャンピオンシップで)

「芦屋シティグラフ(ASHIYA CITY GRAPH)」を発売します！



市では、このたび新しく「芦屋シティグラフ」(A4判・52ページ/全カラー刷り)を発行、1月15日(火)から発売します。

芦屋の自然や歴史、芦屋ゆかりの芸術・文学・文化一。それらに触れつつ散歩を楽しめるコースの紹介、行政の動きや統計、また市内の医療機関一覧(地図)など盛りだくさんの情報を写真170点のほかイラストや地図とともにわかりやすく掲載しています。

■発売日 1月15日(火)より右記4カ所 ■発売場所 市役所行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー・大利昭文堂(月若町8-1)・天久堂書店(南宮町11-1) ■定価 300円



問い合わせ 広報課 ☎38-2006